



流行性耳下腺炎

(おたふくかぜ)

👂 病気の説明 (どんな病気?)

原因はムンプスウイルスです。突然発熱し、唾液腺(耳下腺、顎下腺、舌下腺)の腫れと痛みが生じます。特に、耳の前～下にある耳下腺の腫れ(片側あるいは両側)が最も多いです。症状は1～2週間程度で軽快します。感染していても症状が出ない不顕性感染の人が30～35%程度います。合併症として無菌性髄膜炎が多く、また不可逆性の難聴や睾丸炎などがあります。成人が感染すると、症状が重くなる傾向があります。

👂 予防 (感染はどう防ぐ?)

飛沫感染(咳、くしゃみなど)、接触感染(感染者の飛沫などに触れた手で、口や鼻などの粘膜を触ることによる)です。耳下腺などの唾液腺が腫れる1～2日前から、腫れて5日後までは最もウイルスの排出量が多く、他者への感染力が強いです。

潜伏期間は2～3週間です。

予防には咳エチケットと手洗いが重要です。また、2回のワクチン接種^{*}により、流行性耳下腺炎の発症と、重い合併症を予防することができます。

※ 1歳で1回目を接種し、1回目の接種後2～6年の間隔をおいて2回目を接種。ただし任意接種。



👂 治療 (感染したときは?)

基本的に対症療法です。発熱や耳下腺の痛みには解熱鎮痛薬を用います。

👂 登園・登校の基準

耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹(腫れ)が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席停止とされています。

👂 詳しく知りたい方は [おたふく風邪について | メディカルノート \(medicalnote.jp\)](https://medicalnote.jp)

👂 横浜市の流行状況 [横浜市感染症情報センター 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](https://yokohama.lg.jp)

